



Andrea & Magda / ICRC

NEWSLETTER

第17号

赤十字国際委員会ニュースレター

【目次】

コラム・世界の現場から	1
特集：シリア—悪化の一途をたどる人道状況	2
日本とICRCの関わり	3
赤十字の輪・駐日事務所通信	4

ヴィンセント・ニコ

ICRC 駐日代表

2012年も世界各地でたくさんの人道危機が見られました。中でもシリアでは現在も続く戦火により、多くの人が避難を強いられています。報道でもシリアに関する記事を見ない日はありません。しかし大々的な報道の陰で、支援を必要としながらもその事実があまり伝えられていない国が多数存在します。コンゴ民主共和国、マリ、ソマリア、リビア…注目を浴びる国は一部に限られていますが、規模や場所にかかわらず、暴力の被害にあった人々はみな同じ苦しみを抱えています。ICRCはこれらの人々に寄り添い、公平な配慮と支援を続けていきます。

今年は変化の年でもありました。7月にICRCの新総裁として着任したベーター・マウラーには、新しい風を吹き込むことで、困難な時期に直面するICRCを力強く導いていく期待が寄せられています。さらに駐日事務所でも、私が外国人として初の代表に着任するという変化がありました。世界をけん引する日本において、長年にわたるアフリカやアジアの現場での経験を存分に発揮していきたいと思えます。

活動の最前線で働く国際救援職員への日本人応募者も年々増加傾向にあります。来年はさらに多くの日本人が私たちの仲間となり、人々の関心の外に置かれている「忘れられた紛争」を含む全ての戦闘の被害者に希望を与え尊厳を守る役割を担っていくことを願います。

世界の現場から

マリ

北部の人道状況は現在も悪化の一途をたどっている。戦闘の影響に加え、洪水による農作物への被害や食料価格の高騰に苦しむ人々を支援するため、ICRCは特に大きな被害を受けた地域での食料配付を急いでいる。ICRCが9月に各国政府へ要請した2,500万スイスフラン（約21億円）の追加支援をもとに、ICRCとマリ赤十字社は10月16日現在、Timbuktu、Gao、Kidal、Moptiなどの地域で42万人分の雑穀、米、豆、油、塩を配付している。また、家畜への予防接種、洪水被害を受けた人々への物資提供、雨期のため急増するマalariaへの対策として医療施設への薬の提供なども行っている。10月末現在、食料・水・医療品の需要は依然として高く、ICRCはマリおよびサハラ地域での支援活動を強化するため、各国政府をはじめ幅広く支援を呼びかけている。

リビア

10月10日と19日、戦闘が続いている西部バニワリードへ医療チームを派遣。負傷者の状況調査と、病院への医療品の提供を行った。ICRCはバニワリードの主要病院に対し、負傷者100人以上の治療薬と、慢性疾患の薬を提供。併せて、総合病院にトリアージ（重症度判定検査用）に必要なキットを提供した。また、10月26日現在、バニワリードに近いOrbanとTarhunalに避難している1万人以上を対象に、リビア赤新月社と共同で食料・飲料水・医療品・その他生活必需品を配付している。

ソマリア

中部Hiiraan州Beletweynで紛争と洪水の被害を受けた約6万人に食料を配付。そのうち9月末の洪水で自宅が被害を受けた3万9,000人に、ソマリア赤新月社との協力のもと一時的な避難場所と基本的な生活用品、安全な水を提供している。ICRCとソマリア赤

新月社は以前より、紛争の被害を受けた同地域の国内避難民2万1,000人に対して生活の自立に向けた支援を行っていた。これらの緊急支援に加え、ICRCは洪水被害を抑えるため7カ所の堤防を修理中。今後も同地域の人道状況を注意深く見守っていく。

バングラデシュ

10月2日、麻痺患者リハビリセンター（CRP）がバングラデシュ第2の都市チッタゴンに新たな施設を開設するに伴い、医療器具や義肢装具を提供した。CRPは1979年の設立以来、脊髄損傷患者に治療と身体リハビリテーションを行っており、ICRCは首都ダッカのCRPにおいてスタッフの研修や技術面での支援を実施している。今年に入って、ダッカのCRPは385人の患者に身体リハビリテーションを実施。ICRCは284人の患者に矯正器具と人工義肢を提供した。低コストかつ高性能の人工義肢・矯正器具を生産するICRC独自の技術を開発し、身体リハビリテーション分野における専門技術を獲得してきた。

最新情報は公式ツイッター @ICRC_tokからも配信

写真

シリアとイスラエル占領下のゴラン高原に離れて暮らす姉妹が、親族の結婚式により再会。1976年にイスラエルが同地を占領して以来、初の対面となった。ICRCはゴラン高原で物資および人の移動をサポートしている。



ICRC

特集 シリア—悪化の一途をたどる人道状況

戦闘が続くシリアでは2012年9月、人道状況が急速に悪化しました。特に北部アレッポ、首都ダマスカス市内・郊外、西部ホムスは最も被害を受けており、何万もの人々が家を追われました。避難後、別の場所へ再度移動を余儀なくされた人々も多数います。

紛争の激化により人道ニーズも高まりました。インフラの大部分が被害を受けたり破壊されたりしたため、地域住民は生き残るために必要なものを入手することすら困難な状況です。また、不安定で危険な状況あるいは医療品の不足が原因で、医療サービスを受けることもままなりません。本来であれば救われるはずの多くの人々が、医療にアクセスできないために日々命を落としています。10月から、ICRCはホムス市内の病院や医療施設に医療品を提供しています。また、シリア赤新月社と協力し、ホムスから北西10kmのJwalekにおいて、ホムスから避難してきた人々のニーズを調査するとともに、迫り来る冬に備え、国内避難民を中心とする3万人以上に毛布を配付しました。

ICRCは年始以降、シリア赤新月社とともに、100万人分の食料と25万人分の基本的な家庭用品を配付してきました。併せて、ダマスカス市内・郊外、ホムスでは100万人以上に水を供給。シリア周辺国に避難した人々への支援も継続しています。ICRCはシリアでの武力衝突被害者に対する支援を今年いっぱい続けるため、2,450万スイスフラン（約21億円）の追加支援を各国へ要請しています。

難民への支援活動

行き場を失った何十万もの人々の多くは、知人の家や公共施設に身を寄せています。レバノン、ヨルダン、トルコなどの隣国に親戚や友人を頼って避難する人の数も、日々、千人単位で増えています。しかし多くの人は身を寄せる先がなく、使用されていない学校など国内の公共施設で暮らしています。7月下旬にはダマスカス市内の学校も避難所として利用されるようになりました。ICRCは避難している人々が今最も必要としている支援を届けるべく、活動を拡大しています。

シリア国内の紛争を逃れて隣国レバノンへ避難した人々に対し、ICRCは今年1月から7月末までに以下の医療支援活動を行いました。

- ・レバノン赤十字社の緊急医療サービスを支援。492人以上の負傷者を安全な場所へ避難させる。
- ・負傷者を避難させ病院に移送するための中継地をレバノン赤十字社に提供。
- ・重症を負った難民400人を治療するため、北部3カ所の病院に医療物資を提供。



3万5,000人以上がレバノン・ベッカー高原に避難



住民の力を借りて救援物資を配付（ホムス）

- ・3月から7月にかけて、ベッカー高原に身を寄せている避難者9,400人に対し、食料、マットレス、毛布、衛生用品、台所用品、その他家庭用品などを配付。また、新たに到着した避難者を支援している現地の支援団体に物資を提供した。
- ・難民を治療するレバノン北部の外科医、一般医、看護師を対象に、戦傷外科および戦傷についてのワークショップを開催。

紛争当事者は一般市民と戦闘員の区別を

ICRCは2012年に入ってから約40万人に支援を行ってきましたが、いまだすべての需要には対応しきれいません。国際人道法の下、傷病者は最大限かつ迅速に医療やその他の必要な支援を受ける権利を有します。紛争当事者は、一般市民を保護して安全な場所へ避難させるため、すべての実行可能な予防措置を取ることが求められます。

ICRCはシリア当局および反政府勢力と個別に話し合い、人道に関する懸念事項を伝えています。これ以上戦闘に関わりのない人々の命が失われたり、一般市民に苦しみ及ぶことがあってはなりません。今まさに戦闘中の関係者にこの声が届くよう、緊急に広く呼びかけを行っています。

総裁が支援活動の拡大を要請

9月上旬、ICRC総裁ペーター・マウラーがシリアを訪問。甚大な被害を受けたダマスカス郊外を訪れ、激しい戦闘下で必死に生きる市民の様子を目の当たりにしました。

アサド大統領、外相、保健相、国民和解担当国務相との会談では、同国で急速に高まる人道ニーズを満たすため、円滑でより充実した支援活動の必要性を確認。救援物資の輸送規制を緩和し、支援活動を拡大することで一致しました。

2011年3月以降、何万もの人々が国内で拘束されています。彼らが持つ基本的な権利は守られるべきであり、家族とも連絡を取り合えるようにならなければなりません。アサド大統領は会談で、紛争によって国内の施設に拘束されているすべての人々を訪問するという私たちの要請に、前向きに取り組む意思を表明しました。

シリアでは日々、犠牲者と人々の苦しみが続いていない状況です。今回の会談がどのように国内の状況に影響していくか、個人的にも注意深く見ていきたいとマウラーは話しています。



片腕、右目を失った時の様子を総裁に話す男性（ダマスカス郊外）

ICRCとシリア

ICRCは1967年の第三次中東戦争以降、シリアで活動しています。シリア赤新月社とともに、暴力の被害を受けた人々に寄り添い、水・衛生面での支援を行ってきました。2011年3月に始まった戦闘を受けて、現在は、負傷者への緊急医療・応急処置を中心に活動しています。ICRCとシリア赤新月社は、シリア国内でも最大の被害を受けた地域で活動する事実上唯一の人道支援組織です。危険な状況下で大きなリスクを背負いながら活動しており、10月末までにシリア赤新月社のスタッフ5名が戦闘に巻き込まれ命を落としました。

赤十字の輪

藤原紀香さん 赤十字発祥の地を訪問

日本赤十字社の赤十字広報大使である女優・藤原紀香さんが、9月、イタリア・ソルフェリーノとスイス・ジュネーブを訪問しました。

1859年6月24日にイタリア北部ソルフェリーノで繰り広げられた激しい戦いにより、1日で約4万人の死傷者が発生。偶然、この惨状を目の当たりにしたスイス人実業家のアンリー・デュナンが近隣に住む女性たちを率いて敵味方の区別なく救護活動にあたったのが、赤十字の原点です。藤原さんはソルフェ



欧州12カ国がジュネーブ条約に調印したアラバマ・ルーム（ジュネーブ）



ソルフェリーノにある赤十字広場に続く糸杉の並木道を歩く

リーノの塔のボルギ館長に案内され、戦いにまつわる展示品を見学。その後、亡くなった兵士の遺骨が納められている納骨堂を訪問しました。7,000柱を超える遺骨を前に藤原さんは、「言葉にならないですね。遺骨をあえて残すことで、伝わるものがあるのだと思います」と衝撃を受けていました。

ジュネーブでは、デュナンの生家や通った高校、1854年にジュネーブ条約が締結されたアラバマ・ルームを訪れた後、ICRC総裁ペーター・マウラーと対談。マウラーは、「人間の大切さを理念として打ち出し、赤十字という組織を結成して具現化していったことがデュナンの功績です。その後、世界各国で次々と赤十字が誕生したことは、赤十字運動の力の大きさを表しています」と話しました。

訪問を振り返り藤原さんは、「150年前に、敵味方関係なく苦しんでいる人を救いたいと考えたデュナンの思いは今、世界中に広がり、多くの人を支えている。彼の存在の大きさを痛感するとともに、『人間を救うのは人間だ』という言葉の意味を改めて実感しました」と述べ、赤十字広報大使としての決意を新たにしました。

今回の訪問はテレビ番組として放映されます。是非ご覧ください。

「藤原紀香が辿る ～赤十字とソルフェリーノの戦い～」

12月15日(土)20時～21時
ナショナル ジオグラフィック チャンネル (CS放送)

駐日事務所 通信

国際人道法(IHL)模擬裁判大会 国内予選聴講者募集

ICRC、日本赤十字社、日本赤十字国際人道研究センターは、大学生を対象にIHL模擬裁判大会国内予選を開催します。模擬裁判では架空の問題が設定され、参加者は原告チームと被告チームに分かれて英語で議論を闘わせます。IHLを机上の学問としてのみでなく、武力紛争の現場で実際に適用されるルールとして、学生に理解を深めてもらうことを目的としています。

聴講（無料、学生以外も可）を希望される方は、11月20日（火）までに、下記問い合わせ先までメールにてお申し込みください。

開催概要

日時:2012年12月8日(土)
会場:日本赤十字看護大学 広尾キャンパス
問い合わせ先:rcmootcourt2012@gmail.com

国際救援職員の採用を強化

ICRCでは、約13,000人の職員が88カ国で活動しています。その中でも現場の最前線に立つのが国際救援職員です。国際救援職員の任務は、武力紛争や暴力の伴う状況下において、公平・中立・独立の活動原則に基づき、助けを必要とする人々を支援・保護することです。併せて、国際人道法の普及にも取り組んでいます。

ICRCは今年8月から、日本人を対象に国際救援職員の採用を積極的に行っています。戦いの最前線にいるICRCだからこそ成せる活動を通じて、自分にはできないこと、他では経験できない個人としての「国際貢献」を実体験してください。

応募条件

- ・対象年齢：25歳以上
- ・学士、またはそれと同等の学歴を有すること
- ・2年以上の職務経験
- ・海外赴任が可能な方（家族の同伴は当初2年間不可）
- ・英語での業務遂行が可能であること（フランス語、スペイン語、アラビア語、ロシア語が堪能な方は優遇）
- ・マニュアルの運転免許を取得していること

応募はウェブサイトより

www.jrc.or.jp/ICRC → ICRCで働く

「赤十字150年賞」を授与

—二科展デザイン部特別テーマ・ポスター—

第97回二科展デザイン部の特別テーマに「赤十字150年」が選ばれ、326点のエントリーがありました。9月8日に東京・六本木の国立新美術館で授賞式が行われ、68点の入選作品の中から、ICRCは地球にハートを集めるポスターを描いた田口知佳子さん（茨城県）に赤十字150年賞を授与しました。入賞・入選作品は今後、駐日事務所の制作物を通してご紹介します。また現在、地方巡回展が開催されています。お近くにお住まいの方は是非足をお運びください。

地方巡回展日程

2012年10月30日～11月11日	大阪市立美術館
2012年11月29日～12月9日	京都市立美術館
2013年1月8日～1月13日	広島県立美術館
2013年3月6日～3月17日	鹿児島県歴史資料センター 黎明館
2013年4月16日～4月21日	福岡市立美術館



田口知佳子さんの作品（手前上）を鑑賞する駐日代表二科



ICRC

赤十字国際委員会 駐日事務所

〒105-0001
東京都港区虎ノ門5-13-1 虎ノ門40MTビル6階
TEL: 03-6459-0750 / FAX: 03-6459-0751

日本語ウェブサイト: <http://www.jrc.or.jp/ICRC/>